

お知らせ

記者発表資料	平成30年7月17日
配布日時	16:30

■同時発表先：島根県政記者会
出雲市政記者クラブ

平成30年7月豪雨に対する 斐伊川放水路と尾原ダムの効果について【速報】

平成30年7月5日から7日にかけて、梅雨前線の停滞による影響で、斐伊川流域では降り始めからの流域平均総雨量が227mmを記録し、氾濫注意水位を超過する出水となりました。

今回の出水に対し、斐伊川放水路と尾原ダムを運用することにより、斐伊川下流（灘分地区）で87cm、宍道湖で26cmの水位低減効果がありました。

なお、斐伊川放水路への分流は平成25年6月完成以降7回目となります。

※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

斐伊川放水路分流堰付近（7/7 6:10時点）



斐伊川放水路開削部（7/7 6:10時点）



<問い合わせ先>

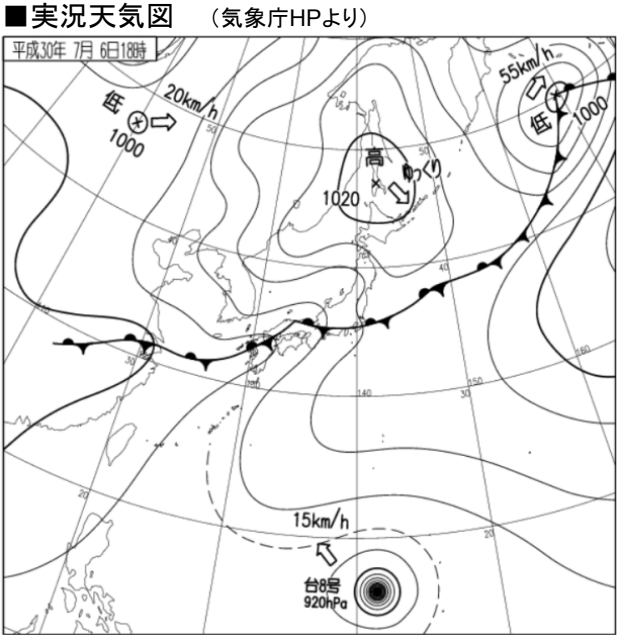
国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所
副所長(技) おきた ひろゆき
【担当】管理第二課長 沖田 宏之
飯田 ひろひで
博英
0853-20-1754 (直通)

〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町5-1 電話：0853-21-1850(代表)
ホームページURL：http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/

平成30年7月豪雨の出水概要

1. 天気概況

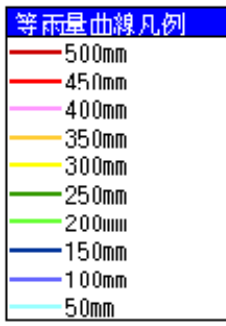
中国地方では、西日本に停滞する前線に向かって、南から流れ込む暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、島根県東部では5日から7日にかけて、ところにより激しい雨が降り続いた。



2. 降雨状況

斐伊川流域では5日朝から7日の朝方にかけて断続的に激しい雨が降り、7月5日から8日までの72時間雨量が斐伊川流域平均で207.7mmを記録した。

※降り始めからの総雨量(7/3~7/8)は226.6mm



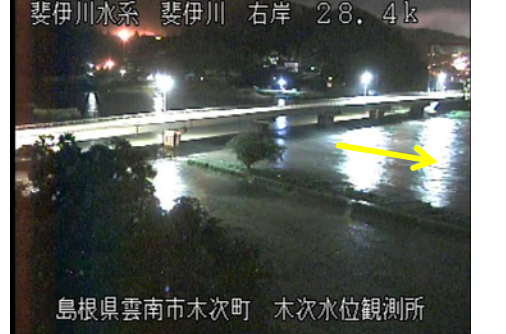
累加時刻:2018/7/5 0:00~7/8 0:00
累加時間:72時間

3. 出水状況

木次観測所(28.4k) 平常時



7/7 1:00



新伊萱観測所(24.1k) 平常時



7/7 1:00



灘分観測所(4.1k) 平常時

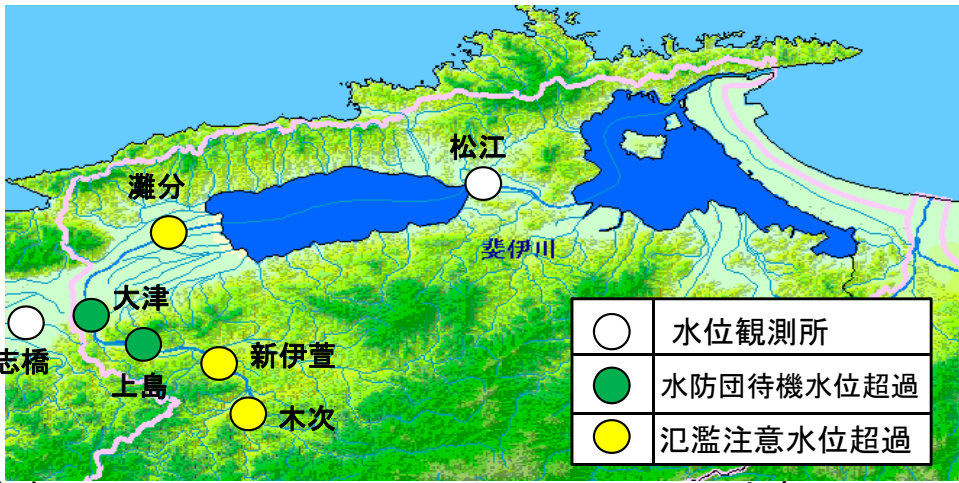


7/7 1:00



平成30年7月豪雨の出水概要

4. 各水位観測所の出水状況(国管理)

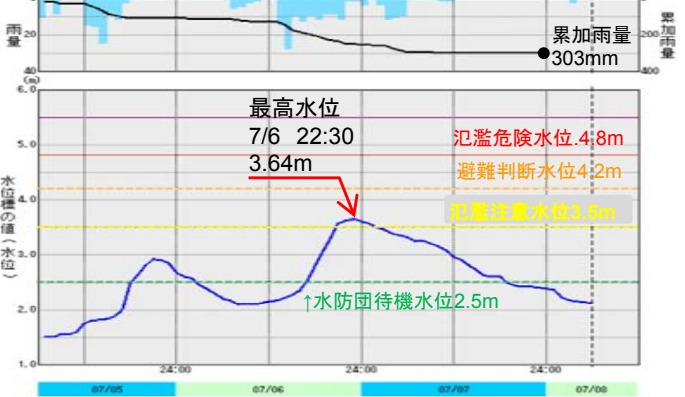


凡例 計画高水位 氾濫危険水位 避難判断水位 氾濫注意水位 水防団待機水位

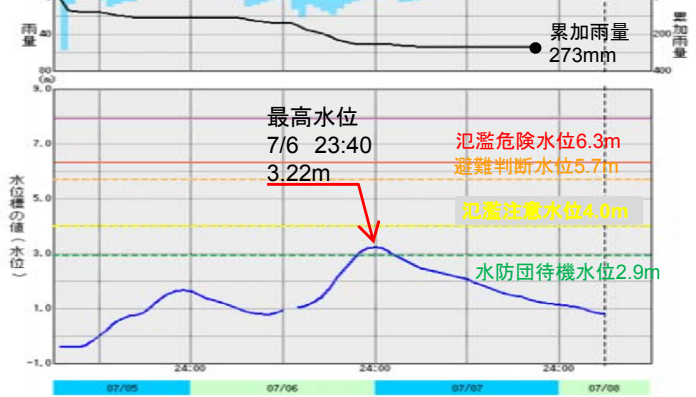
凡例
 雨量
 累加雨量
 河川の水位

今回の降雨により氾濫注意水位を超えた観測所は、木次、新伊萱、灘分の3箇所。

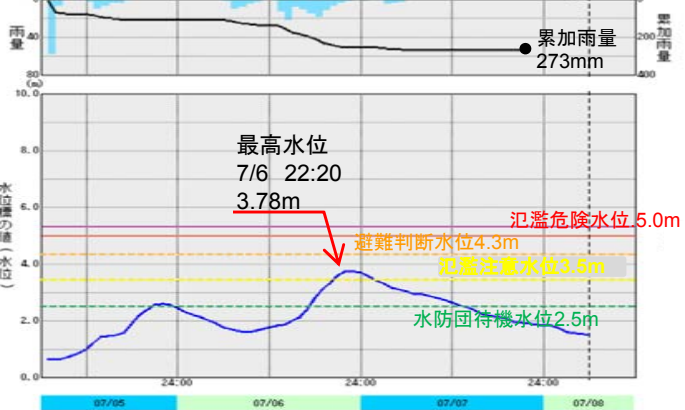
木次



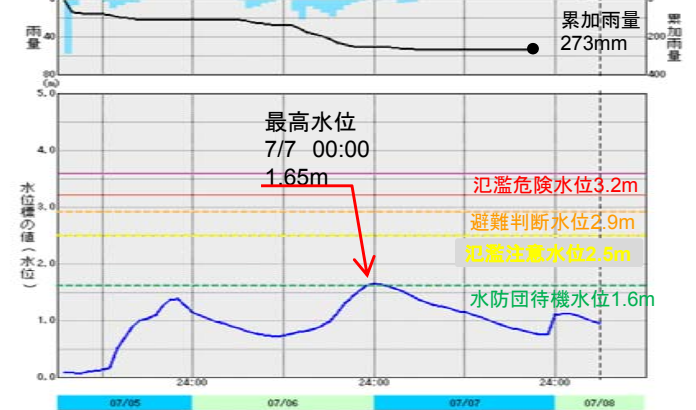
上島



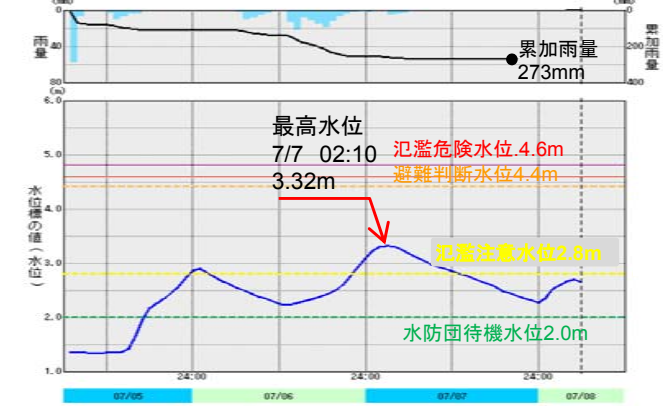
新伊萱



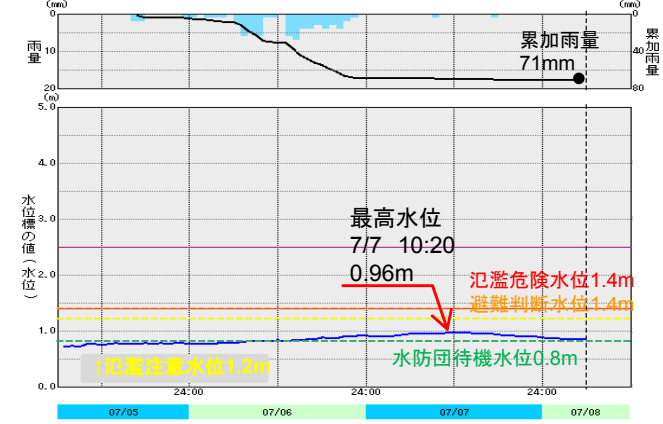
大津



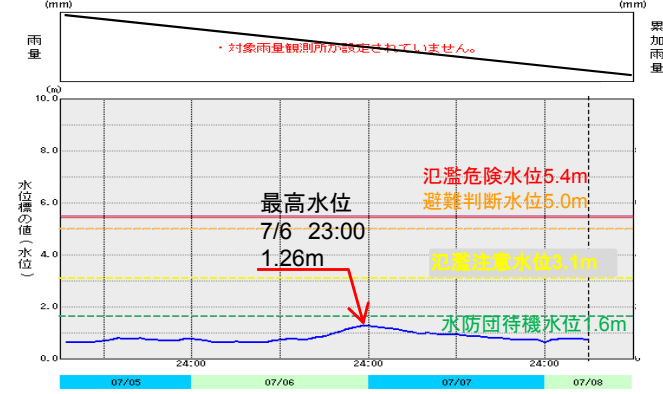
灘分



松江(宍道湖)



古志橋(神戸川)



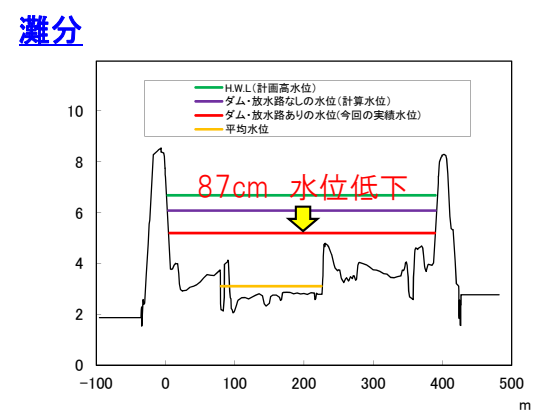
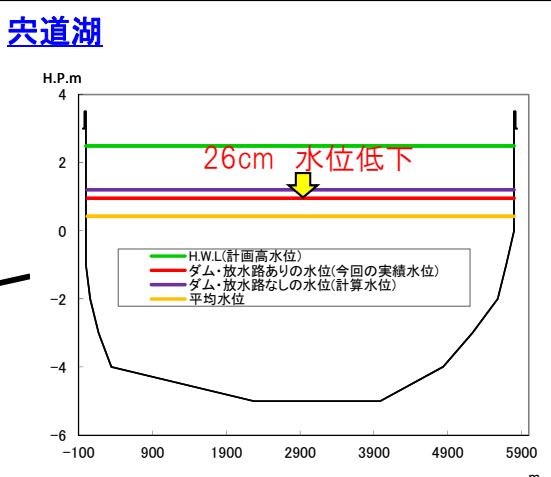
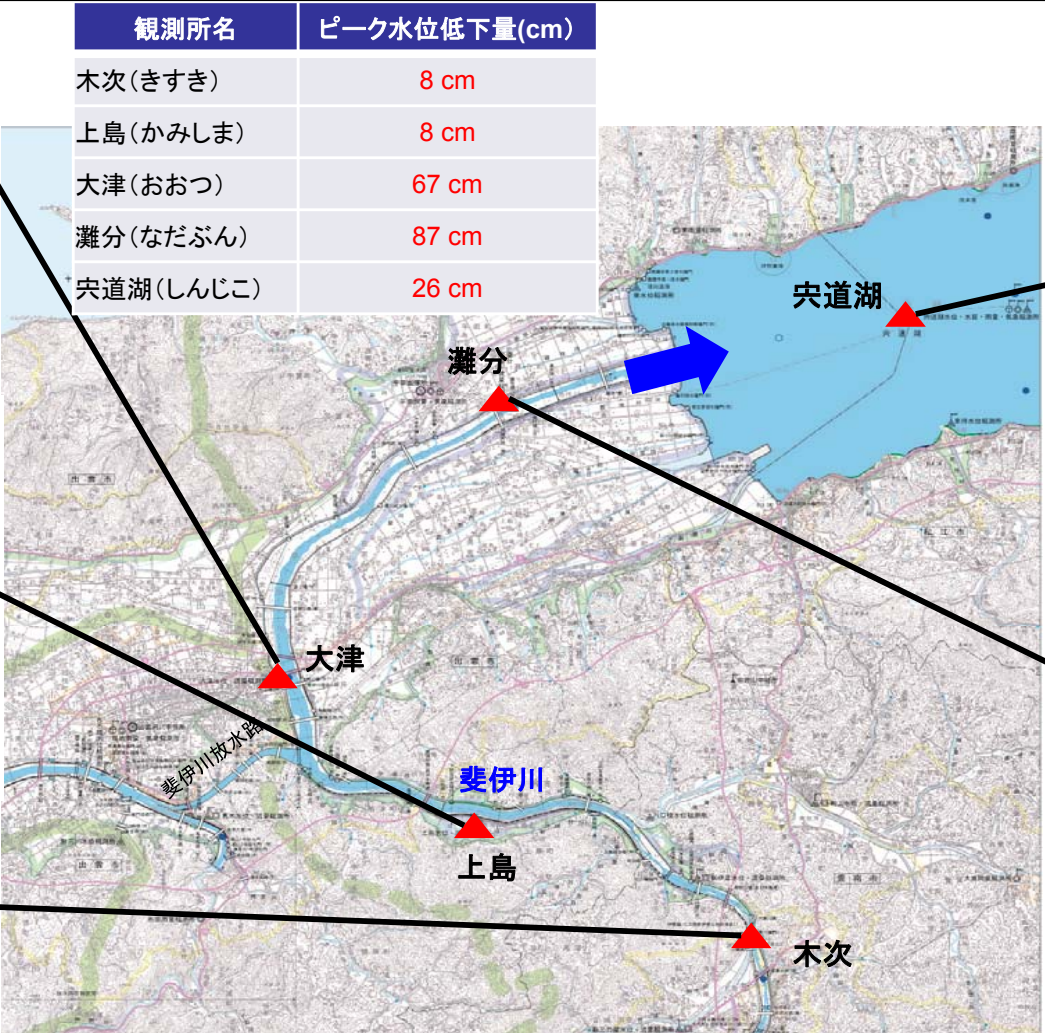
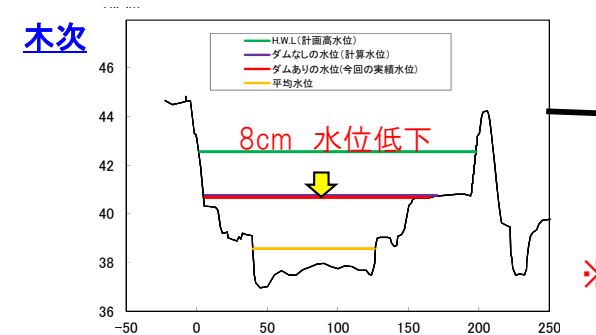
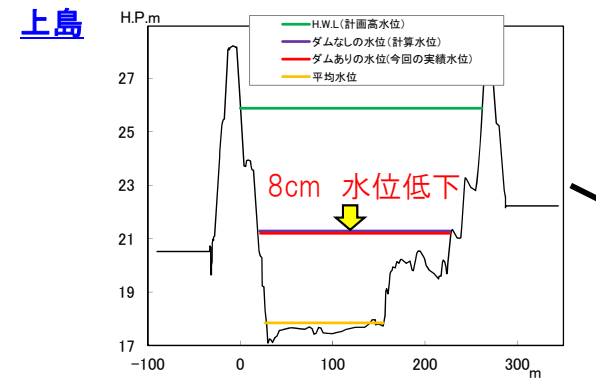
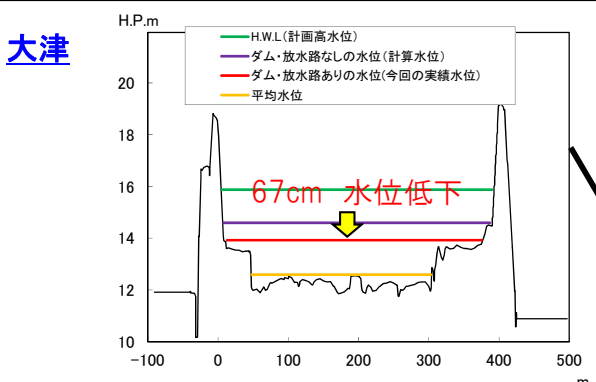
おばら ひいかわ ほうすいろ 尾原ダム及び斐伊川放水路の整備効果

速報

○平成30年7月5日から8日の降雨において、

- ・斐伊川水系尾原ダムでは、適切な防災操作を行うことで下流の河川に流す水量を最大流入量時で約70m³/s低減し、ダム下流の木次観測所地点で、**ピーク水位を8cm低減させる効果があったものと推定。**
- ・斐伊川放水路では、**最大約590m³/sの分流を実施し**、尾原ダムとあわせて**ピーク水位を灘分地区で87cm、宍道湖湖心で26cm低減し**、宍道湖の水位が氾濫注意水位を超過するのを防ぐ効果があったものと推定。

※「防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水量等を勘案しながらダムの貯水量を減じる操作です。ただし、今後、今後多くの降雨が予測される場合は実施できません。



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。
ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。

斐伊川放水路の整備効果

○分流堰において、斐伊川本川の洪水の一部を神戸川へ分流し、**斐伊川下流への洪水流量を低減**しました。
 なお、今回の分流は**放水路運用後最大の分流量を記録**しました。

<斐伊川放水路の概要>

- ◆斐伊川の洪水の一部を神戸川へ分流し、斐伊川下流への洪水流量を低減させるものです。
- ◆昭和56年に事業着手し、平成25年6月に完成しました。

<今回の出水による斐伊川放水路の運用状況について>

- 斐伊川の流量増加に伴い、7月5日19時56分頃に分流堰地点で約400m³/sを超え、斐伊川放水路へ分流(自然越流)が始まりました。
- さらに斐伊川本川の流量が増加し、分流堰地点で約500m³/sを超えたため、7月5日21時20分より分流堰ゲートの倒伏操作を開始。
- 7月7日23時5分頃に斐伊川本川の流量が分流堰地点で約400m³/sを下回ったため、ゲートを起立させ斐伊川放水路への分流が終了。

斐伊川放水路分流堰(7/7 6:10)

斐伊川放水路開削部(7/7 6:10)



平成30年7月豪雨 による 斐伊川放水路分流状況

H30.05撮影



【流量は速報値】

	分流開始	分流終了	斐伊川本川 (上島観測所) 最大流量	最大分流量
1回目	平成25年 9月 4日 5時30分頃	平成25年 9月 5日 4時10分頃	約 1,250m ³ /s	約 550m ³ /s
2回目	平成25年 10月 24日 15時30分頃	平成25年 10月 25日 23時20分頃	約 530m ³ /s	約 200m ³ /s
3回目	平成26年 8月 17日 12時50分頃	平成26年 8月 18日 0時10分頃	約 700m ³ /s	約 270m ³ /s
4回目	平成26年 10月 13日 23時45分頃	平成26年 10月 14日 4時52分頃	約 440m ³ /s	越流のみ*
5回目	平成29年 9月 17日 22時27分頃	平成29年 9月 18日 15時40分頃	約 750m ³ /s	約 290m ³ /s
6回目	平成29年 10月 22日 21時30分頃	平成29年 10月 23日 18時15分頃	約 1,200m ³ /s	約 470m ³ /s
7回目	平成30年 7月 5日 19時56分頃	平成30年 7月 7日 23時 5分頃	約 1,550m ³ /s	約 590m ³ /s

* 堰を越流したのみで、ゲートは倒していません。

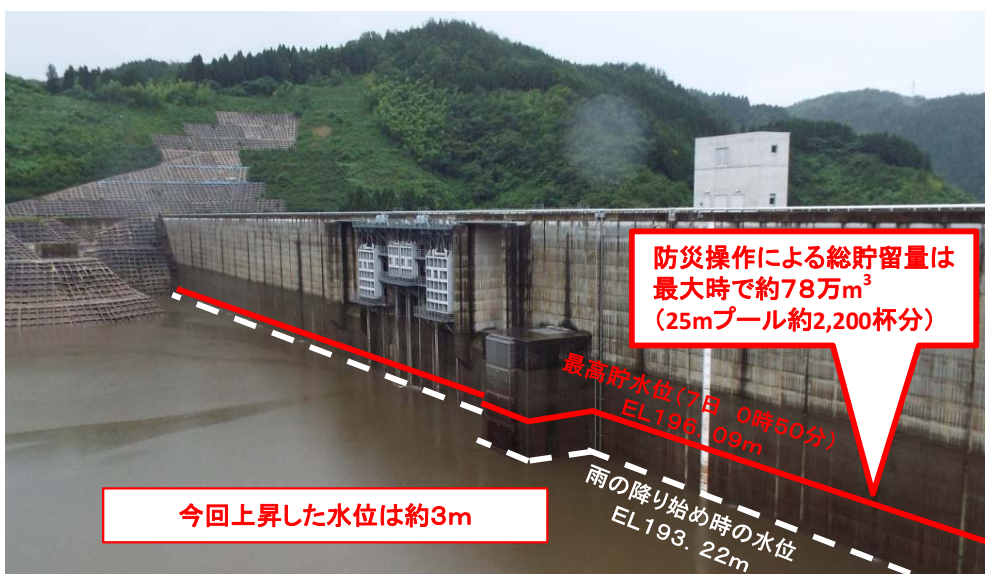
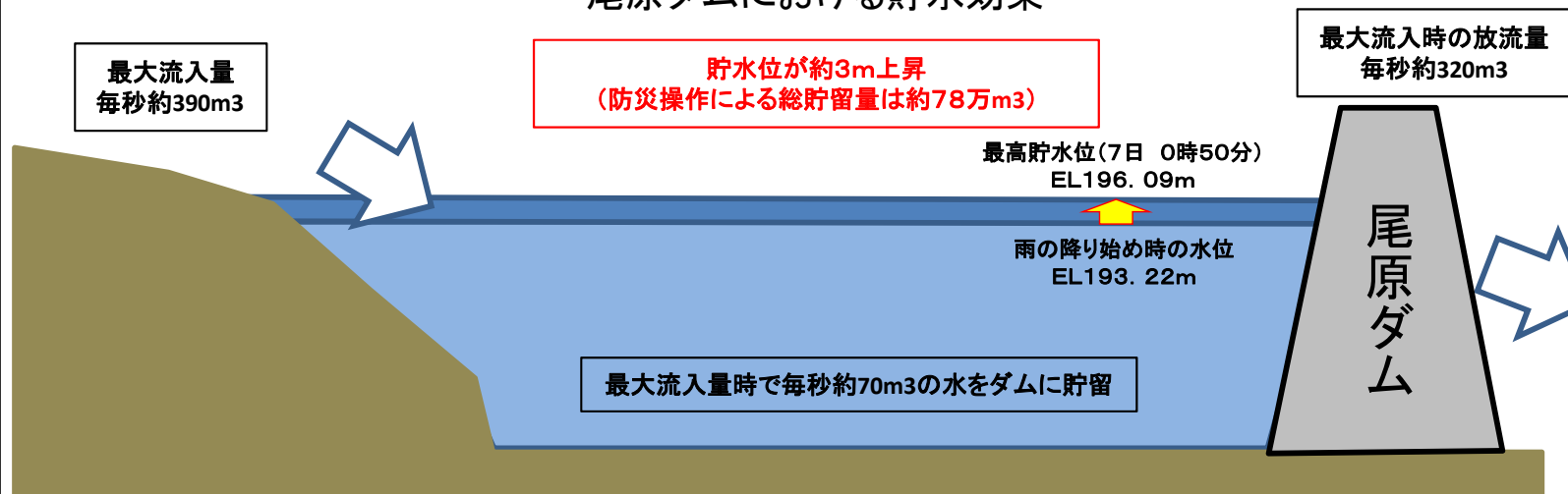
※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

尾原ダムの整備効果

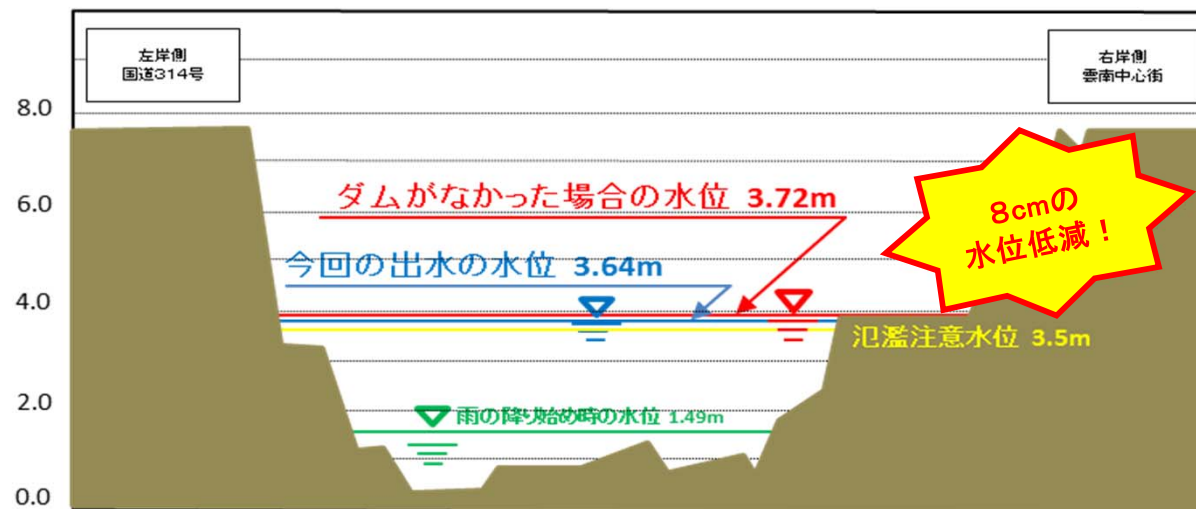
速報

- 尾原ダム上流では、流域平均累加雨量264mmを記録。
 - 今回の降雨によりダムへの流入量が最大で毎秒約390m³に達し、このうち毎秒約70m³をダムに貯留する防災操作を行いました。今回の防災操作により、ダムに貯留した洪水は最大約78万m³（小学校にある25mプール約2,200杯分）です。
 - その結果、ダム下流の木次観測所地点（雲南市木次付近）で、ピーク水位を8cm低減させる効果があったものと推定されます。
- ※プールは、幅12m×深さ1.2m×長さ25m=360m³（立方メートル）で換算

尾原ダムにおける貯水効果



(m) 木次観測所地点の水位状況(雲南市木次町付近)



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。